

# 「在宅就労セミナー2018」開催 ～「働き方改革」と障害のある人のテレワーク～

社会福祉法人 東京コロニー 東京都葛飾福祉工場  
〒125-0042 東京都葛飾区金町2-8-20

## 助成事業の概要

「在宅就労セミナー」と題した研修は、「日社  
済平成27年度社会福祉助成事業（集合研修）」に  
より、在宅就労を希望する重度身体障害者を対象  
として2015年度に実施した「在宅就労セミナー  
2017」が評価され、参加者からの継続を望む声  
もあったことから、以降継続的に実施している。

昨年度においては、障害のある人の「在宅勤務」  
「テレワーク」といったワークスタイルが一層関  
心を高めるなか、ITツールを活用したテレワーク  
就労のヒントや実例の紹介、デモンストレーショ  
ンに焦点を当て、政府の働き方改革などによって  
普及しつつある重度身体障害者のテレワーク就労  
の可能性や課題等について参加者一同で学び共有  
した。今年度は、こうした取組の中長期的な継続  
かつ拡がりへの期待を見据え、昨年度と同様の参  
加対象者を想定したうえで、当事業所で在宅就労  
を行う従業員自らの企画により、下記要領にて実  
施した。

実施日 2018(平成30)年6月13日(水)

13:30～16:30

セミナータイトル 「在宅就労セミナー2018 ～  
「働き方改革」と障害のある人のテレワーク～」

参加者 在宅就労者、これから在宅就労を希望  
する人、企業関係者等 計30名

## 事業の成果

昨年度においては、テーマに中長期的な継続か  
つ拡がりへの期待を見据え、働き方改革の動向を

念頭に置き、今後、重度障害者のテレワークに有  
用なIT系ツール（アプリ等）の紹介やデモンスト  
レーションを中心としたセミナーを開催した。こ  
のテーマは実際に当事業所で在宅就労を行う従業  
員やフリーランスで働く在宅就労者への事前アン  
ケートを参考に設定したものであったが、引き続  
き、日頃の実務の中から必要と思われる知識や技  
術等の習得を目的に今年度のテーマ設定を検討し  
たが、今回はこうした実務的なテーマに加え、こ  
れから就労を希望する人やその支援者等の視点も  
踏まえつつ、2つの講義を行うこととした。

まず、セッション1「障害者就労の現状」と題  
した当法人の理事長による講義では、文字通りの  
現状として「障害者雇用対策の概要」「障害者権  
利条約の背景」などの基本事項をおさえつつ、近  
年課題となっている職場定着に向けた取り組み、  
テレワーク就労普及のための施策、社会雇用支援  
の実現に向けた提言等の紹介があった。

続いて、セッション2「実務セミナー 著作権法  
について」では、弁護士の黒寄隆氏を講師に招き、  
ICTによるテレワークを活用しデザイン系、創作  
系の業務をおこなう在宅就労者にとっては特に必  
須のテーマとなった。内容は著作権保護の概念、  
基本的認識の共有に始まり、具体的な侵害事例や  
対応事例の紹介などに展開、デザイン等の業務に  
従事する在宅就労者のみならず、営業系、事務系  
業務従事者にとっても、またリスクマネジメント  
の点からも有用なテーマ及び講義であり、短時間  
の講義であったとはいえ、受講者がこれを機に日  
頃の実務の中で著作権保護に対する意識を持つこ  
とがいかに大切なことか、知るきっかけともなる

セミナーであった。

このほか、テレワーク就労を効率よく行う上で必須ともいえるテレビ会議のデモンストレーションなども取り入れ、こうしたツールを今後のセミナーにどのように活かすか、その可能性を探る機会にもなった。

取り組んでいきたい。

## ■ 成果の広報・公表

成果報告として当事業所のWebサイトに掲載するほか、そのソースとなった情報等も可能な限り公開する。当事業所の広報媒体などにも掲載し、在宅就労という働き方の現状についてさらに関心が高まっていくよう取り組んでいく。また、このセミナーの大きな特徴として、障害のある在宅就労者が自ら企画し、事前告知や当日の進行、収支計算等も行っていることあげられる。ほかにも、講師との折衝を重ねたり、成果を報告にまとめたりと、在宅就労の実践者として、自らの経験値を伝え、さらなる普及に貢献する機会としての側面も、このセミナー実施の大きな成果であるといえる。

## ■ 今後の展開

2015年度の研修実施から4年度にわたり、この助成事業の活用によって当事業所の在宅就労における取組や実績の紹介、他団体の動向も含めた情報共有、実践的なテーマの設定など様々な取り組みを重ねてきた。政府による働き方改革の動きの中で、障害者の就労の多様化が叫ばれる中、一貫した目標である「『働くカタチは、ひとつじゃない』の実現」に向けて、仕事を通じて得た経験値を広く紹介したり、さらには他団体とのネットワーク化などにも結び付けていきたいと考える。一方で、参加者層が固定化されつつあるという点も課題とし、新たな参加対象者の掘り起こしにも